

小学校【体育科】「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 体育科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

- 「主体的な学び」・・・ 運動の楽しさや健康の意義等に気づき、見通しをもって最後まで粘り強く課題達成に向けて取り組み、やり遂げようとする学び
- 「対話的な学び」・・・ 運動や健康についての課題解決に向けて、教員や友達、地域の人及び書物等を含めた、他者との対話を通して行われる協働的な学び（自己内対話も含む）
- 「深い学び」・・・ 「体育の見方・考え方」を働かせて、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく課題解決をする学び

体育の見方・考え方…「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様なかわり方と関連づけること。」

2 「主体的・対話的で深い学び」の例 【B 器械運動「マット運動」5年 開脚前転】

つかむ - めざす姿を理解する。 - 本時の個人課題を決める。 - 技術ポイントを把握する。 - 練習方法を確認する。	○単元全体や本時で身に付ける技能についての「めざす姿」を具体的に示すことで、終末での姿をイメージさせ、学習の意欲や見通しをもたせる。 例：「開脚前転ができるようになる」→師範をして見せる。段階表で3点の姿等 【主体的な学び】全体計画会 - めざす姿になるための個人課題を明確にする。 例：「前の時間は尻もちをついて2点だったので今日は3点の姿をめざすぞ。」 - 課題達成のための技術ポイントがわかるようにする。 例：「起き上がるためには、脚の開くタイミングを遅らせて勢いをつけて回転するといいんだな。」 - 練習方法や場がわかるようにする。 例：試技を見合いアドバイスしあいながらの練習 【対話的な学び】グループ計画会 - 個人課題を仲間と共有することで、お互いの関わり方の焦点化をする。 例：「私は3点の姿になるために…。」「○○さんは…を意識するんだな。」
深める - 個人課題を追求する。 - 仲間との教え合い、励まし合いを通して課題を追究する。 - 試行錯誤を重ねながら、さらに個人追求をする。	【主体的な学び】課題解決に向かう練習 - 技術ポイントを意識して、課題達成に向けて粘り強く練習に取り組む。 【対話的な学び】協働的な学びによる練習 - 見てほしいポイントを仲間に伝えてから試技をする。そのできばえについて、お互いに見合い、教え合う。 例：自分「脚を開くタイミングを見ててね。」仲間「いいよ。」 自分「どうだった。」仲間「また回転と同時にだったから、もう少しがまんだよ。」 L「開くタイミングで、みんなで『いけ!』と声をかけよう。」 - 動きの質を高めるために、できるようになった児童の試技をみて、自分の練習に取り入れるとよさそうなことを考えてさらに練習に励む。 例：「ぼくは、技に入るときに、ひざのばねを使ってもう少し強くけったら、さらに勢いが出て起き上がれそうだな。」 【深い学び】質的な高まりが見られる練習 - 体育の見方・考え方を働かせて、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく課題解決をしようとして練習に取り組む。 例：「できない→できる→うまくできる→力強くできる」への変容の過程 ～体育の見方・考え方の視点～ - 運動の特性・学習過程・技術ポイント・練習内容・練習方法・場の設定等
まとめる - 本時での自己の変容やよかったこと、困ったこと等を振り返る。 - 次時の見通しをもつ。	【主体的・対話的で深い学び】テスト会・グループ反省会 - 本時のできばえを、自己評価・相互評価する中で、できた喜びや変容を実感する。 例「今日は3点になりました。それは、脚を開くタイミングを遅らせて起きるための勢いをつけたからです。○○さんのアドバイスのおかげです。ありがとう。」 【主体的な学び】全体反省会 - 次回のめざす姿をイメージすることができる。 例「次回は、補助倒立という新しい技に挑戦しましょう。」

